

東京と北陸を結んだ4K双方向伝送の公開実験を実施 ～4K利活用の可能性をアピール～



主催者を代表して星克明
北陸総合通信局長が挨拶
(北陸会場)

総務省北陸総合通信局（局長 星 克明）及び北陸情報通信協議会（会長 久和 進 北陸経済連合会会長）は、平成27年11月28日に石川県野々市市の金沢工業大学と東京・お台場の日本科学未来館を1Gbps～100Gbpsの超高速回線で接続して4K双方向伝送の公開実験を行いました。

北陸会場では午後1時30分から、主催者を代表して総務省北陸総合通信局長の星局長による挨拶の後、ジャパンケーブルキャスト株式会社（JCC）の大熊代表取締役社長による「4K映像伝送への取り組み」と題し、ケーブル4Kの取り組みやH-IIAロケットによる「はやぶさ2」打ち上げの4K中継伝送などの事例紹介が行われました。

午後3時50分から、金沢工業大学で開催されたG空間情報を活用した街づくりについて学生がアイデアを発表する「G空間×ICT北陸まちづくりトライアルコンクール」と日本科学未来館で開催されたG空間EXPO2015の「学生フォーラム」の2会場を4Kで接続し、学生が交互にアイデア発表、意見交換する様子を4Kで双方向伝送する公開実験を行いました。



4K双方向伝送実験（北陸会場）



4K双方向伝送実験（東京会場）



写真上＝非圧縮伝送装置及び周辺機器（北陸会場）

写真右＝H.264圧縮伝送装置（東京会場）

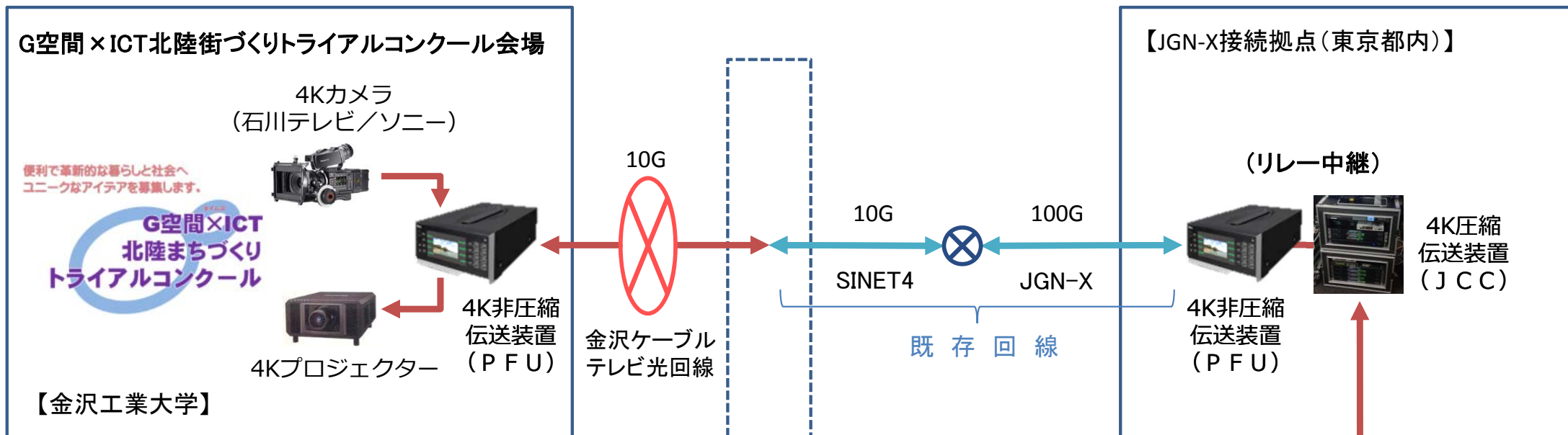


通信回線は、金沢ケーブルテレビネット株式会社の光ファイバーで金沢工業大学と国立情報学研究所（NII）が運営するSINET4の金沢DCを接続し、大阪でSINET4から情報通信研究機構（NICT）が運営するJGN-Xに接続、JGN-Xの都内の接続拠点から日本科学未来館までJCC、東京ケーブルネットワーク株式会社のご協力による臨時回線で接続しました。

公開実験は、非常に複雑な回線構成、機器構成にも関わらず、NICTを中心に、石川県内・都内のケーブルテレビ局、石川県内のテレビ局、電気通信事業者、カメラ・伝送装置・表示装置等の関連メーカーなど多くの方々の協力により実現しました。4K超高精細映像による双方向ライブ中継（実験）システムの概要は、次ページのとおりです。

北陸総合通信局では、北陸情報通信協議会の4Kクールジャパン北陸推進部会を通じて、引き続き4K・8Kロードマップの推進と医療、教育、観光等の幅広い分野での利活用の拡大に取り組んでいくこととしています。

4K超高精細映像による双方向ライブ中継(実験)システムの概要



【JGN-X(JGN eXtreme)】

国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)において、新世代ネットワーク技術の実現とその展開のためのテストベッド環境として、構築、運用されたものです。

【SINET】

国立情報学研究所(NII)が日本全国の大学、研究機関等の学術情報基盤として、構築、運用している学術情報ネットワークです。

【G空間EXPO】

地理空間情報高度活用社会(G空間社会)の実現へ向けて、産学官が連携し、地理空間情報と衛星測位の利活用を推進する場として、11月26日(木)から28日(土)にかけて開催。

<http://www.g-expo.jp/>

(注)PFU : PFUビジネスフォアランナー株式会社
JCC : ジャパンケーブルキャスト株式会社



【日本科学未来館】